

Q 本ばかり読むのですか？

A **必ずしもそうではないです。**

知識を得るために本を読むというのは重要ですから、入学後も出来るだけ多くの読書体験をしてほしいと思います。しかし、それがすべてではなく、**フィールドワークや実習を含んだ講義・演習科目もあります**し、同級生や先生と議論をする科目やそのような機会も多くあります。

Q 「日本」を強く押し出しているのですか？

A **「地域に生き 世界に伸びる」が本学のスローガン**です。(阪大と同じ)主に、日本語そのものや日本語を用いた作品・資料を題材として勉強や研究を行います、**アメリカや韓国に交換留学できる制度もあります**し、むしろ積極的にグローバルな視野を身につけてほしいと思っています。それが「日本」をより深く理解することにつながるからです。

Q 学生は熊本県出身者ばかりですか？

A **熊本県出身者は半分**くらいです。

おおむね半が熊本県内出身者です。残りの半分は県外出身者で、九州内からの進学者が多いですが、九州外から来ている学生も毎年います。



その他の情報は
こちらからどうぞ

熊本県立大学文学部 日本語日本文学科 ホームページ
<https://jll.pu-kumamoto.ac.jp/>



熊本県立大学

文学部？



熊本県立大学
文学部について
特に日本語日本文学科

日本文学？



よくある疑問に
教員が答えます！



Q | 就職ができるのか心配 !!!

A | 日本語日本文学科の卒業生の就職率は高いです。(95%程度)
翌年の公務員試験などのためにあえて就職を決めずに浪人する学生もいますので、そういった場合も含めれば、各学年が50人以内ですから、就職を希望する卒業生はほぼ全員が就職できている状況です。大学院に進学する学生もいます。

Q | 就職先のイメージがわからない。

A | 逆に、就職先は多様です。
「医学部ならお医者さん」というような、具体的に対応する職業のイメージはないと思います。それもそのはずで、書類作成能力や論理的思考、プレゼンテーション力の鍛錬といった、汎用的な能力の育成を図ることにより、本学科の卒業生は幅広い職種に就職をしていきます。

(例) 国家公務員、地方公務員(県市町村)、教員(中学校、高校、日本語教員)、学芸員、日本郵政、日本年金機構、印刷・出版業、金融業(銀行、信用金庫)、小売業(デパート、ドラッグストア、ECサイト運営会社、など)、情報系(エンジニア)、その他の事務職多数。

Q | 何を学べるところかよくわからない。

A | あなたが現時点で想像しているよりはいろいろなことが学べると思います。
文学作品を扱うだけでなく、言語(主に日本語)そのものの研究・分析をしたり、歴史や文化を学ぶ科目もあつたりします。また、日本語教育も学べ、中学・高等学校国語教員の資格(免許)取得のための科目も設置しています。さらに、英語のほか、韓国語・中国語・フランス語・ドイツ語といった外国語科目も学べます。大学では高校よりも勉強できる内容の自由度は圧倒的に高いので、自分の興味に合わせて学修する中でより深めたい方向性を定め、最終的に卒業論文をまとめます。

Q | 「役に立たない」と言われたりするのですが。

A | 上の回答でも挙げた汎用的な能力というのは、一見して分かりやすいものではないので、そのように言われるのだと思います。しかし、社会で生きていくうえで重要な能力であり、そのような能力を身につけた人たちが幅広い分野で働いているということが、この多様性にあふれた世界を支える力になっているのだと(特に)就職などで社会に出た後には実感してもらえると信じています。逆に言えば、特定分野に特化した能力のみを身につけた人だけで社会を回すことはできません。例えるなら、ピッチャーだけでは強い野球チームはできない(他の守備位置の選手も必要)、あるいは選手だけではチームがうまく回らない(監督やコーチやマネージャーも必要)のと同じです。

Q | 合格するためにはどのような勉強(対策)が必要ですか。

A | ある程度まとまった(長さのある)文章をじっくり読むことです。もちろん、習慣的に読めるようになるのが一番良いですが、日常の習慣とまでいかなくても、まずは、何かしら興味のあるものを数冊読んでみるだけでも皆さんの力になると思います。ジャンルも小説などの文学作品に限りません。あくまで一例ですが、専門的テーマを比較的わかりやすく書いた〈新書〉も良いでしょう。授業で一部を扱った作品の全編を読んでみたり、教科書や国語便覧に名前が出てくるような有名作品から選んで読んでみるのも良いでしょう。自信のない人は岩波ジュニア新書のようなとっつきやすいものから始めてみて下さい。入口はどれであれ、長い文章を読むという経験がまずは重要です。ちなみに、電子書籍も悪くはないのですが、文学部をお考えでしたら、電子化されていないものに慣れておくという意味で、紙媒体で読むのもおすすめです。古文・漢文についても、受験テクニックを覚えるのではなく、文法・語法の基礎をしっかりと固めて本文(問題文)の内容が読めるようにする方針が良いと思います。